

今月は、6月の父の日を前に、(株)東レの渥美様によるコラム「イクメンを育てる育ボスとWLB」を中心に、ワーク・ライフ・バランスに関する施策紹介や最新の動き、調査結果等についてお送りします。

.....

(目次)

《コラム》

「イクメンを育てる育ボスとWLB」

株式会社東レ経営研究所 ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長
渥美由喜氏

《制度施策紹介 ～人事担当の皆様へ～》

●育児・介護休業法・次世代育成支援対策推進法について【厚生労働省】

《企業事例紹介》

●「女性が活躍する企業事例集」【厚生労働省】

《最新情報》

●お知らせ

・「仕事」と「介護」の両立ポータルサイトを開設【内閣府】(2014年4月) 他

●地方公共団体等の動き

・子育て応援企業表彰の募集【茨城県】(2014年5月) 他

●イベント(開催日順に掲載)

・平成26年度男女雇用平等セミナー【主催：東京都】 他

《統計・調査トピックス》

●ワーク・ライフ・バランスに関する個人・企業調査【内閣府】(平成26年5月) 他

.....

《コラム》

「イクメンを育てる育ボスとWLB」

株式会社東レ経営研究所 ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長
渥美由喜氏

WLB推進で重要になってくるのは、男性上司の意識改革とよく言われる。経営陣が女性活躍やWLBを進めていくと方針を示しても、なかなか現場には浸透していかない。これは組織のピラミッドの中間層にその浸透を阻む『粘土層』があるからである。

現在あらゆる組織で、幹部社員の大半は若い頃、ワークとライフは超アンバランスだっ

た。そうでなければ出世ができなかつたので仕方がない。しかし、彼らは今もそういう価値観かというところではない場合がある。例えば愛娘がワーキングマザーで苦勞をしている場合、父として非常に良い理解者になっていることがある。こういう層はプライベートな部分で理解がある、家族「水」要らずで、溶ける『カミ粘土』である。一方で、ガチガチに固着している『カタ粘土』がいる。日本を代表する金融機関で講演した際に、最初から最後まで刺すような視線にさらされた。後で、人事部長が、「渥美さん、うちの管理職は永久凍土です・・・」と愚痴っていた。

そういう層は、WLBという自分の生き方が否定されていると感じ反撥するが、その中でも本当に優秀な人は、データとロジック（相手に響く言葉）を使うとある程度、説得できる。

女性に愛情の配分先を回答してもらくと、結婚直後のトップは「夫」だが、これは一時期のあだ花に過ぎない。子どもが生まれると子どもがトップの座につき、夫への愛情はがくっと下がる。その後、徐々に回復していくグループと、低迷していくグループに二極化する。

筆者が独身時代に調査したので、なぜ二極化するのだろうと理由がわからず、別の調査項目をみてみた。「出産直後、乳幼児期に子育てを誰とやりましたか」という設問があった。出産直後、乳幼児期というのは、夜泣きなどもあり、非常に大変な時期だ。そういう時期に「私一人でやりました」と回答した女性たちは低迷グループと非常に高い相関があり、「夫と二人でやりました」と回答した女性たちは回復グループと非常に高い相関があった。

つまり、乳幼児期に夫が育児・家事をまったくやらないと、仕事人間の夫に対して、妻に不信感が芽生えてしまう。家庭がガタガタになると、仕事もガタガタになりかねない。

男性部下が子どもを授かった時に、上司は是非とも「いま夫婦と一緒に子育てをやっておくと、夫婦の絆が強まるから、大変だと思うが頑張れ。家庭という基盤が安泰だと、仕事にも安心して打ち込むことができ、さらに家庭円満という好循環が生まれるぞ。」と励ましてあげてほしい。

最近では女性部下を登用できなければ評価を下げる企業もある。評価基準に入れることは、もともと管理職を動かす。私が、十数社で男性上司の女性部下登用と出世の関係を調査したところ、女性部下を抜擢した男性上司が役員になる確率は、抜擢しなかった場合と比較して10倍だった。その理由は2つ考えられる。1つ目は男女にかかわらず、きちんとやっている人を評価できるというフェアな目線を持っていること。2つ目は、女性だからではなく、あらゆる部下に対してサポートや励ますスキルがあること。女性登用は男性にとっては自分たちの椅子が奪われるというイメージがあるが、「情けは人のためならず」、実は自分たちにとっても得があるのだ。

.....

《制度施策紹介～人事担当の皆様へ～》

●育児・介護休業法・次世代育成支援対策推進法について【厚生労働省】

職業生活と家庭生活との両立のために役立つ、育児・介護休業法や次世代育成支援対策推進法に関する情報が記載されたページです。ご参考下さい。

⇒

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/shokuba_kosodate/jigyou_ryouritsu/ryouritu.html

.....

《企業事例紹介》

●「女性が活躍する企業事例集」【厚生労働省】

女性が出産・育児を経て長く働き続けるための職場環境づくり、そして働く女性自身の参考として、仕事も育児も両方あきらめずにいきいきと働いている女性管理職のいる9社の企業に、女性管理職の方の経験談やその女性管理職の方を支える会社の人事・労務制度等についてお伺いし、その内容を事例集にまとめています。

⇒ <http://www.ryouritsu.jp/bn09.html>

.....

《最新情報》（原則として、発行月の前月以降に更新された内容を掲載しています。）

●お知らせ

・「仕事」と「介護」の両立ポータルサイトを開設【内閣府】（2014年4月）

内閣府では、これから介護が必要になるかもしれないという不安を抱えた方、突然家族の介護をすることになった方、これからの生活のためにも仕事を続けていきたい方のためのポータルサイトを開設しました。

⇒ <http://www.cao.go.jp/wlb/ryouritsu/index.html>

・男性職員の育児休業取得に関する意識調査結果（一般職国家公務員）【人事院】（2014年4月）

人事院は、今後の男性職員の育児休業取得促進のための施策検討等に資するため、一般職の国家公務員のうち、育児休業を取得しなかった3歳未満の子を持つ男性職員（常勤職員）5,000人を対象に、育児休業取得に関する意識等について調査を実施しました。

・「育児休業」を「取得する必要がないと思った」職員が全体の約7割、そのうちの約8割が「自分以外に育児をする者（配偶者）がいる」と回答等の結果が得られています。

⇒ <http://www.jinji.go.jp/kisya/1404/ikukyuishiki-ippandansei.pdf>

・産業保健活動総合支援事業の開始【独立行政法人労働者健康福祉機構】（2014年4月）

平成 26 年 4 月より、産業保健推進センター事業、メンタル対策支援事業及び地域産業保健事業を一元化し、産業保健活動総合支援事業を開始します。

⇒

http://www.rofuku.go.jp/Portals/0/data0/oshirase/pdf/sanpo_sougoushienjigyou_start.pdf

・女性活躍アクション・プランを公表【一般社団法人日本経済団体連合会】(2014 年 4 月)

(一社) 日本経済団体連合会は、女性活躍アクション・プラン～企業競争力の向上と経済の持続的成長のために～を公表しました。本提言は、企業における女性の活躍推進を「継続就労」と「役員・管理職登用」の二つの側面に分け、さらにこれを取り巻く社会全体の問題として「男女の固定的役割分担意識」と「理工系女性人材の育成」を取り上げ、それぞれの課題を明確にしたうえで、経団連、企業、政府等が今後、取るべきアクションを提案しています。

⇒ https://www.keidanren.or.jp/policy/2014/029_honbun.pdf

・マザーズハローワーク・マザーズコーナー【厚生労働省】(2014 年 5 月)

マザーズハローワーク・マザーズコーナーでは、子育てをしながら就職を希望している方に対して、キッズコーナーの設置など子ども連れで来所しやすい環境を整備し、予約による担当者制の職業相談、地方公共団体等との連携による保育所等の情報提供、仕事と子育ての両立がしやすい求人情報の提供など、総合的かつ一貫した就職支援を行っています。きめ細かな相談等に応じておりますので、お気軽にご利用ください。利用料等一切無料です。

⇒ <http://www.mhlw.go.jp/kyujin/mother.html>

・我が国のこどもの数【総務省】(2014 年 5 月)

総務省統計局では、5 月 5 日の「こどもの日」にちなんで、平成 26 年 4 月 1 日現在におけるこどもの数(15 歳未満人口)を推計しました。

- ・こどもの数は 1633 万人、33 年連続の減少
- ・こどもの割合は 12.8%、40 年連続の低下
- ・こどもの数は東京都及び沖縄県では増加

等が推計されています。

⇒ <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/topics/topi820.htm>

・女性職員の活躍推進プログラムを策定【文部科学省】(2014 年 4 月)

文部科学省では、男女共に仕事と家庭の両立が図られる職場環境の実現を目指し、新たに「文部科学省女性職員の活躍推進プログラム」を策定しました。

⇒ http://www.mext.go.jp/a_menu/joseikatsuyaku/index.htm

・「選択する未来」委員会を開催【内閣府】（2014年5月）

「選択する未来」委員会は、第7回会合を開き、これまでの議論の中間整理（案）について議論しました。「制度、政策、人々の意識が速やかに変わるならば、未来は変えることができる」との問題意識のもと、「未来への選択」の項目として「年齢、性別にかかわらず意欲のある人が働ける制度を構築し、女性、若者、高齢者がこれまで以上に活躍できる。」等を挙げています。

⇒ <http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/shiryou.html>

・「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップ・ポスター展示（8月29日～31日）の募集について【独立行政法人国立女性教育会館（NVEC）】（2014年5月）

男女共同参画促進のための意識改革と具体的な取組を促すことを目的に、2泊3日の研修を実施します。当事業の実施にあたり、昨年同様、全国各地で男女共同参画や女性の活躍促進に取り組む方々が情報を発信・共有する場としてワークショップ及びポスター展示を募集します。

⇒ ワークショップ <http://www.nwec.jp/jp/program/invite/2014/page04g.html>

ポスター展 <http://www.nwec.jp/jp/program/invite/2014/page09h.html>

・6月は「男女雇用機会均等月間」です【厚生労働省】（2014年5月）

職場における男女の均等な取扱いや女性が活躍する社会の実現を目指し、本年は「踏み出そう ポジティブ・アクション！～男女ともに力を発揮する企業が未来を担う～」をテーマに、7月1日から施行される男女雇用機会均等法の改正省令・指針及び妊娠・出産等を理由とする不利益取り扱い禁止についての周知徹底を図るほか、積極的に企業や団体を訪問してポジティブ・アクションに必要な助言及び情報提供を行うなど、均等法やポジティブ・アクションへの認識・理解を深める取組を行います。

⇒ <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000046855.html>

・<予告>介護離職を予防するための「職場環境モデル」導入実証実験参加企業を募集【厚生労働省】（2014年6月）

厚生労働省は、労働者が親や家族の介護のために、やむを得ず仕事を辞める「介護離職」を未然に防ぐため、昨年度に作成した介護離職を予防するための「職場環境モデル」を実際に企業に導入していただく実証実験を行います。

詳細は、6月上旬に厚生労働省ホームページで公表する予定です。

⇒

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyoukintou/ryouritsu/i

ndex.html

●地方公共団体の動き

- ・子育て応援企業表彰の募集【茨城県】(2014年5月)

仕事と家庭(育児等)の両立できる職場環境づくりや、地域において県民の子育てを支援するサービスに取り組んでいる企業のうち、顕著な功績のあった企業を県が表彰し、当該企業が社会的に評価される仕組みをつくることにより、企業の自主的な活動を促進し、次代の社会を担う子どもの健全な育成を図ります。(応募締切:平成26年7月31日)

⇒ http://www.kids.pref.ibaraki.jp/kids/nursing01_6/

- ・両立支援アドバイザーを派遣【千葉県】(2014年5月)

千葉県では、仕事と家庭が両立できる職場環境づくりを目指す事業主の皆様を取組を支援するため、社会保険労務士を両立支援アドバイザーとして無料で企業に派遣し、各種両立支援の相談についてアドバイスします。

⇒ <http://www.pref.chiba.lg.jp/koyou/worklifebalance/jisedai/adhaken.html>

- ・「働く女性のハンドブック」を作成【新潟県】(2014年5月)

女性が仕事と家庭を両立しながら働き続ける上で役に立つ、是非知っていただきたい法律や制度をわかりやすく解説するとともに、相談窓口や働く女性の管理などを紹介しています。

⇒ <http://www.pref.niigata.lg.jp/roseikoyo/1343336448635.html>

- ・平成26年度「元気とやま!仕事と子育て両立支援企業」の募集【富山県】(2014年5月)

富山県では、仕事と子育てを両立しながら働くことのできる職場環境づくりに積極的に取り組み、その成果をあげている企業を募集します。その中でも、優れた取組みを行っている企業を表彰し、セミナーやHP等で紹介します。(募集期間:平成26年5月1日~6月30日)

⇒ http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1303/kj00014257.html

- ・パパ子育て講座の受講団体を募集【石川県】(2014年4月)

石川県では、父親の子どもの接し方や家庭での役割等についての理解を深めるための出前講座の受講団体を募集しています。

⇒ http://www.i-oyacomi.net/wlb/news_sub.php?wt_no=118

- ・子育てハンドブックを発行【山梨県】(2014年4月)

これから出産、育児をする親が安心して子育てに取り組めるよう、子育て支援に係る様々

な制度等を紹介した「子育てハンドブック」を作成しました。

⇒ <http://www.pref.yamanashi.jp/kosodatehien/64335304321.html>

・冊子「Co.dakara」～ふじのくに子育て応援モデル企業事例集～を発行【静岡県】（2014年4月）

平成25年度に実施された「ふじのくに企業子宝率」（従業員が生涯で持つことが出来るこどもの人数）調査結果をもとに、優れた企業とその取組を紹介する冊子を制作しました。

⇒ http://www.shizuoka-ebooks.jp/?post_type=bookinfo&p=2147

・女性職員が中心となる企業内プロジェクトチームを応援【福井県】（2014年4月）

企業や団体内での女性活躍の新たな取り組みを促すために、女性職員が中心となるプロジェクトチームの発足およびその活動を支援します。（募集期間：平成26年4月10日～平成26年6月10日）

⇒ <http://www.pref.fukui.jp/doc/danken/ladygo/jyoseipt.html>

・働く女性応援研修会参加者募集【広島県】（2014年5月）

平成26年4月に経済団体、労働団体、行政が一丸となって「働く女性応援隊ひろしま」を結成し、広島県では女性の活躍による企業の活性化を進める機運が高まっています。女性のキャリア形成や人材育成として有効な研修会などを開催します。（三次会場：平成26年7月4日・7月18日、30名／広島会場：平成26年7月5日・7月19日、50名。申込締切：平成26年6月13日）

⇒ <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/ouensaito-sub/kennsyuukaimiyosi.html>

・やまぐち子育て応援企業好事例集を作成【山口県】（2014年3月）

男女がともに働きながら安心して子どもを産み育てることができる雇用環境の整備に向けて、社会全体で子育てを応援する気運の醸成を一層促進するため、特に優れた取組を実施している「やまぐち子育て応援優良企業（知事表彰企業）」について事例集を作成しました。

⇒ http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15900/wlb_adobaizer/koujireishu.html

・ワーク・ライフ・バランス啓発リーフレットを作成【大分県】（2014年3月）

大分県では、企業の皆様にワーク・ライフ・バランスを取り組んでいただくために、県の事業や先進企業の事例を紹介するパンフレットを作成しました。

⇒ <http://www.pref.oita.jp/site/oitarodo/workkosodate-2014panf.html>

・父子手帳「パパのイクメン手帳」を作成【宮崎県】（2014年4月）

宮崎県では、これから父親となる方向けに、妊娠から子どもの小学校入学までの必要情報をまとめるとともに、記念写真や思い出を盛り込むことのできる父子手帳「パパのイクメン手帳」を作成しました。平成 26 年 4 月から、母子健康手帳とともに市町村の窓口において配付していきます。

⇒ <http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/fukushi/jidou/jifuku/page00176.html>

・開港記念日に「ワーク・ライフ・バランス」を実践！【神奈川県横浜市】(2014 年 5 月)

横浜市では、経済団体や市民活動団体等と連携し、市民と企業に向けたワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいます。市内施設の無料開放などのイベントが行われる、横浜開港記念日(6 月 2 日)をきっかけに、家族や大切な人と一緒に過ごしたり、働き方や仕事以外の時間の過ごし方を見直すなど、仕事と仕事以外の生活の両方を大切にすライフスタイルについて考えることを呼びかけています。

⇒ <http://www.city.yokohama.lg.jp/kodomo/kikaku/wlb/0602kaikou.html>

・働きやすい職場づくりを進める企業等を支援する補助金の募集を開始【京都府京都市】(2014 年 4 月)

京都市では、京都市内の企業で働く労働者の仕事と家庭生活及び地域活動、社会貢献活動の調和を図り、「真のワーク・ライフ・バランス」を推進するために、中小企業が行う様々な取組を支援する、京都市「真のワーク・ライフ・バランス」推進企業支援補助金の募集を開始します。(募集期間：平成 26 年 4 月 22 日～7 月 7 日)

⇒ <http://www.kyotostyle-wlb.jp/news/detail/1404141606>

・女性起業家支援事業を実施【公益財団法人ひょうご産業活性化センター】(2014 年 5 月)

兵庫県内で起業や第二創業を目指す女性のうち、審査委員会において有望なビジネスプランであると選定された方に対し、新たなビジネスプラン開発や新事業展開を行うための経費の一部を補助します。(受付期間：平成 26 年 5 月 15 日～7 月 3 日)

⇒ <http://web.hyogo-iic.ne.jp/kigyoseikigyoyou>

●イベント(開催日順に掲載)

・平成 26 年度 男女雇用平等セミナー【主催：東京都】

(1)

日時 6 月 17 日(火) 18:30～20:30

テーマ 女性が活躍するために知っておきたい法制度

講師 法政大学法学部講師 山本圭子氏

(2)

日時 6 月 25 日(水) 18:30～20:30

テーマ 自分のキャリアデザインを描く

講師 (株) キャリエーラ 代表取締役 藤井佐和子氏

場所 東京都国分寺労政会館 国分寺労政会館 4階 第5会議室

対象 働いている方、テーマに関心のある方 75名

参加費 無料

⇒

http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/seminarform/index/detail?kanri_bango=seminar-ku-000066

・ファザーリング全国フォーラム in みえ【主催：ファザーリング全国フォーラム in みえ実行委員会】

日時 6月27日(金)(開会式～分科会7)、28日(土)(分科会8～閉会式)

※詳細はホームページ「プログラム」を参照

場所 四日市市文化会館

大会スローガン 育児参画で男を磨こう！～三重から発信！父親の笑顔、母親の笑顔、子どもの笑顔が社会を変える！～

対象 未就学児童を持った家族、これから子育てをする若者、自治体の担当職員、NPO、企業、労働組合、学校等関係者等

参加費 無料(先着順受付)

⇒ <http://fjtokai.jp/zenkoku/>

・男女共同参画社会づくりに向けての全国会議【主催：内閣府】

内閣府は男女共同参画週間の中央行事として、「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」を開催します。「女性と男性で輝く社会へ～紅一点じゃ、足りない。×家事場のパパヂカラ～」をテーマに、基調講演とパネルディスカッションを行います。是非、ご参加ください。(事前登録制)

日時 平成26年6月27日(金) 13:00～15:45

場所 日比谷公会堂

プログラム

基調講演1 森まさこ 内閣府特命担当大臣

基調講演2 ブルース・ミラー 駐日オーストラリア大使

パネルディスカッション

(パネリスト)

岡藤正広 伊藤忠商事(株) 代表取締役社長

川村 隆 (株) 日立製作所取締役

白井明子 (株) ローソン マーケティング本部マネジャー

塚越 学 (特非) ファザーリング・ジャパン理事
(コーディネーター)

飯田香織 NHK 報道局経済部副部長

参加費 無料

⇒ <http://www.gender.go.jp/public/event/2014/zenkoku/annai.html>

・子ども・子育て支援新制度フォーラム in 神戸【主催：内閣府、文部科学省、厚生労働省】

日時 6月28日(土) 13:30~16:20

場所 神戸国際会議場メインホール

基調講演 「子ども・子育て支援新制度がめざす社会」

淑徳大学総合福祉学部教授 柏女霊峰氏

パネルディスカッション 「みんなが子育てしやすい国へ。始まる！子ども・子育て支援
新制度」

定員 690名

参加費 無料

⇒ <http://maluto.biz/sinseido/koube/index.html>

・経営トップ層のための女性活躍推進シンポジウム「トップが語る 女性を活かして業績
向上」【主催：東京ウィメンズプラザ】

日時 平成26年7月1日(火) 19:00~20:40

場所 東京ウィメンズプラザ ホール

プログラム 基調講演「女性を活かす経営戦略」

(株)日本総合研究所調査部主席研究員 藻谷浩介氏

取組事例報告

・(株)日本レーザー

(経済産業省「平成24年度ダイバーシティ経営企業100選」、
平成25年度東京ワークライフバランス認定企業)

・三州製菓(株)

(経済産業省「平成24年度ダイバーシティ経営企業100選」)

パネルディスカッション

・コーディネーター 藻谷浩介氏

・パネリスト 近藤宣之氏((株)日本レーザー 代表取締役)

斉之平伸一氏(三州製菓(株)代表取締役社長)

定員 150名(定員に満たない場合は当日参加も可能です)

参加費 無料

保育 一歳以上未就学児まで(先着12名。6月20日締切。要事前申込み)

⇒ http://www.tokyo-womens-plaza.metro.tokyo.jp/contents/seminar_140701.html

.....

《統計・調査トピックス》

今回のテーマおよびワーク・ライフ・バランスに関連した調査についてご紹介します。

●ワーク・ライフ・バランスに関する個人・企業調査【内閣府】（平成 26 年 5 月）

平成 25 年 11 月に「ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査」結果速報を公表しましたが、その後、4 業種（建設業、運輸業、小売業、飲食業）を対象に実施した企業調査がまとまりましたので公表します。

- ・多くの企業では、自分の仕事を終え役割を果たしていれば、残業をせず帰宅したり有休のほとんどを消化しても、人事評価でマイナスに評価していない（考慮されていない）。
- ・社員が効果的と考える取組で、有休取得率が比較的高い企業が導入しているのは、ルールづくりのほか、「上司による奨励」
- ・夫の多くは両立支援制度を利用していない。利用率は、就業継続している女性の夫の方が高い。

等の結果が得られています。

⇒ <http://www.cao.go.jp/wlb/research.html>

●家族と地域における子育てに関する意識調査【内閣府政府統括官（共生社会政策担当）】（2014 年 4 月）

本調査研究では、調査結果を広く公表することにより、生命を次代に伝え育んでいく家族の大切さや、子育て世代を地域全体で支えていくことが重要であることの国民意識醸成をはかるとともに、今後の施策立案に寄与することを目的としています。

- ・「家族の役割として重要なこと」としては「生活面でお互いに協力し助け合う」が 51.0% で最多
- ・「家庭での育児や家事を夫と妻のどちらが行うべきか」については「基本的に妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」という回答者が 39.6% で最多だが、「妻も夫も同様に行う」（男性 37.1%、女性 28.6%）という回答は男性の 4 割弱で女性を 9 ポイント上回る

等の結果が得られています。

⇒ http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/h25/ishiki/index_pdf.html

●**壮年非正規労働者の仕事と生活に関する研究【独立行政法人労働政策研究・研修機構】**
(2014年5月)

本研究は、25～34歳層（若年）の非正規労働者と対置させて、35～44歳層（壮年）の非正規労働者を「壮年非正規労働者」と呼び、(1) 彼らが非正規労働をするに至る原因、(2) その仕事と生活の現状、(3) そこからキャリアアップするための条件を明らかにすることを目的に実施したものです。

- ・既婚女性を除くと、壮年非正規労働者は若年非正規労働者よりも消極的な理由から非正規労働を選択していることが多い
- ・自らが家計の担い手である場合が多いにもかかわらず、正規労働者とは異なり若年期から壮年期にかけて職務が高度化せず、賃金・年収も上がりにくいいため、若年非正規労働者よりも貧困に陥りやすい

等の結果が得られています。

⇒ <http://www.jil.go.jp/institute/reports/2014/0164.htm>

●**管理職意識啓発研修の効果に関する報告書【東京大学社会科学研究所ワーク・ライフ・バランス推進・研究プロジェクト】**(2014年3月)

職場のWLB実現には、管理職のマネジメントがカギであることが、さまざまな研究により明らかになっています。当プロジェクトでは、プロジェクト参加企業など5社の協力を得て、管理職向けのWLB意識啓発研修を「グループ研修」と「eラーニング」の2パターン実施しました。本研修プログラムの効果としては、管理職のWLBに対する意識や、職場マネジメント行動の必要性に対する認識は高くなりましたが、実際の行動への効果は管理職自身のみと限定的なものでした。

⇒ http://wlb.iss.u-tokyo.ac.jp/material/pdf/WLB_report_2014_training.pdf

●**仕事と家庭の両立支援に関する雇用環境調査【愛媛県】**(2014年4月)

愛媛県では、県内民間事業所における仕事と家庭の両立支援に関する雇用環境の実態を把握するとともに、今後の労働施策検討の基礎資料を得るために本調査を実施し、結果をまとめました。

- ・従業員の仕事と家庭の両立について重要性や必要性を感じている企業は9割を超えるが、「積極的に取り組んでいる」及び「今後取り組んでいきたい」と回答した企業は合わせて約6割強にとどまる

- ・育児休業の取得状況は女性 81.2%（平成 23 年度調査 78.7%）、男性 3.2%（同 2.7%）
 - ・介護休業の取得状況は休業取得者がいた事業所割合は 1.6%（平成 23 年度調査 2.0%）
- 等の結果が得られています。

⇒ <http://www.pref.ehime.jp/h30500/7217/index.html>

●少子化に関する県民意識調査【愛知県】（2014 年 3 月）

愛知県では、子育ての現状や少子化対策に関する県民の意識やニーズ等を把握するため、少子化に関する県民意識調査を実施しました。ワークライフバランスに関する意識に関し、

- ・子育てする人が働きやすすくない原因として「日常的に労働時間が長い」が 49.9%で最多等の結果が得られています。

⇒ <http://www.pref.aichi.jp/0000070236.html>

●このメールは送信専用メールアドレスから配信されております。
このままご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

□配信中止・配信先変更は、こちらから

<http://www.cao.go.jp/wlb/e-mailmagazine/tetsuzuki.html>

□バックナンバーはこちらから

<http://www.cao.go.jp/wlb/e-mailmagazine/backnumber/index.html>

□このメールマガジンへのご意見・ご要望はこちらから

<https://form.cao.go.jp/gender/opinion-0086.html>

□内閣府仕事と生活の調和推進室ホームページはこちらから

<http://www.cao.go.jp/wlb/>

≪編集後記≫

今年度から本メルマガの担当になりました。より一層、みなさんに役立つ情報を提供していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

さて、最近、職場の引っ越しがあり、これを機に資料の整理・集約化を図りました。そのおかげで机の上や引き出しの中、加えて私の頭の中もすっきりし、仕事に対するモチベーションが上がったような気がします。小さいことのようにですが、整理・整頓は大事なことだと気付きました。

みなさんも、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、まずは小さなことから始めて

みませんか？（ま）

.....